

第3回御殿場市市民協働型まちづくり市民会議 ワークショップ(2) 議事メモ

日時 : 平成16年9月8日(水) 19:00~21:00
場所 : 御殿場市役所第5会議室
参加委員 : 1班(土屋、鈴木(愛)、芹沢、鈴木(喜)、南、吉福)
2班(佐藤、近藤、林、関田、大塚、山本、沓間)
3班(佐々木、神保、三井、鈴木(雄)、田代、小林)
事務局 : 池田、鈴木(地域振興課)
山本、福島(株ダイナックス都市環境研究所)

1 会長あいさつ(芹沢)

市民会議の芹沢会長があいさつを行った。

2 前回のワークショップのまとめ(事務局:山本)

前回ワークショップの各グループのまとめ、全体での課題の整理について、前回のまとめの資料を見ながらダイナックスの山本が説明を行った。



3 各班での検討作業

- ・3班に分かれ、各班での検討作業を進めた。
- ・班ごとにコーディネーター(進行役)を決め、討議スタート。

今回のテーマ~協働の担い手としての市民活動団体の現状・問題点を考える

市民団体・市民活動の現状について意見を出し合おう(20分)

協働の担い手という観点から、市民活動を評価してみよう(20分)

出てきた意見をグループ化して、市民活動の現状と課題を浮き彫りにしよう(20分)

【検討の様子】





4 グループ発表

各班のコーディネーターが検討の発表を行った。

1 班 (発表：南)

- ・前回に市民団体のことも話し合ったが、今回加わった方もいたので、まず活動のことを話してもらった。
- ・わらび会として28年活動してきて、最近は男性の参加も増え、意識がずいぶん変わってきているという話であった。
- ・また、NPO法人の新しい市民団体で、馬術場の運営を委託されたり、エコハウスの運営など、これまでの活動団体に加えて、新しい動きが色々なところから盛り上がり、活動を始めた団体もあるという話があった。
- ・これまでの団体については、例えば婦人会が減少しているという意見があり、行政の支援がない、組織の目的が時代に合わなくなってきた、こういったことが会員数を減らしているのでは、という話であった。
- ・また呼びかけても参加してくれないという意見があった。
- ・そして、昔はこれを皆でやらないと生きていけない、食べていけないという状況があったが、今の御殿場にはそれがない、経済的に恵まれているのではないかといった話など、現状について話し合った。
- ・それに対して、これからどんな風に協働の担い手から盛り上げていった方がいいのか、重点を置くべきなのか、ということ話し合った。
- ・まず組織の問題として、今までの古い組織に束縛されないで、新しく自由に活動してみたいという人をどうやって受け入れていくかということが課題である。
- ・組織どうしの連帯感が乏しい、ネーミングが悪いという意見もあり、それに対しては市民団体間でネットワークづくりをして、企業と行政もそれに関わっていくということであった。
- ・現在、ボランティアということで主に活動しているのは、社会福祉協議会であるが、ボランティア団体をコーディネートする機能があまりなされていないのではないかという意見も、組織の課題としてあげられた。
- ・情報については、PRが大事だということなのだが、PRを



公開する場がない、団体どうしが一緒に何か活動するなど、交流や情報交換する場自体が少ないという課題があげられた。

- ・また、団体と住んでいる地区とがうまく情報交換していけるような場も少ないという意見があった。
- ・実際は、市民はボランティア意識は高いのに、なぜうまくPR出来なくて、個人から団体の活動として広がるのに時間がかかるのか、ということでなかなか結論は出なかったが、情報交換が大事だということ話を話した。
- ・そして、協働する団体が自主財源を確保することが大事だということで、体育協会の例ではエコマネーを発行して、地域通貨として地域の経済活性化につなげているという話があり、市民ボランティアが地域経済を活性化し、御殿場市全体として盛り上がっていくのではという意見があげられた。

【ファシリテーター：山本より】

- ・重要なキーワードとして「コーディネート機能」ということがあげられた。団体が色々あって、一緒に何かやろうといってもなかなか出来ないの、団体間を調整したり、つないだりという役割が重要だということだ。
- ・エコマネーについては、市全体で実験的にやってみるのも面白いかもしれない。例えば、富士山清掃をしたら、地域通貨を発行するなど。
- ・東京の高田馬場商店街では、「アトム」という地域通貨（むかし手塚治虫さんが住んでいたの）を発行し、早稲田商店街から一帯で、半年位かけて実験をしている。ボランティアをすると地域通貨がもらえて、商店街で現金として使えるのがミソである。100数十店舗が参加している。
- ・神奈川県の大和市では、ICカードで施設利用の登録ができ、始めから地域通貨がついてくる。パソコン上で自分の手伝えること、やってほしいことを登録し、カードを使って地域通貨をやりとりすることを行政が仕組んでいる（運営は市民団体）。
- ・このように、NPOのボランティア活動を活性化していくためのツール（道具）として、エコマネーが注目されている。

2 班（発表：山本）

- ・まず市民団体の現状ということで意見を出してもらったが、大きくは地域資源として、「情報」「人」「モノ（特に施設）」、「お金」という分類に整理した。
- ・「情報」についての課題としては、「どんな活動があるのかわからない」「興味のあるものをセレクトできるシステムが充分でない」「市民が興味を持って取り組める分野が限定されている」という問題や、「市内の行事をもっと市外へアピールしては」という意見があった。
- ・次に「人」に関するところが、一番意見の多く出た部分であった。「まだまだ行政依存が多い。自助努力が必要」「地域の活動でリーダーや役員選びが難航する」「若年層が出てくれない」「特定、少数の人になりがち」という課題が出された。
- ・「モノ」については、「施設の建設には利用者の声を反映する必要がある」「公民館や児童館は、いつでも使いたいときに使える環境をつくってほしい」という課題があった。



- ・このほか、物理的な問題として、公民館でお年寄りを対象にした行事などでは、最近高齢者が増えており会場に入りきらない。こういうことへの対応が必要だという意見もあげられた。
- ・「お金」に関しては、「若年層の活動に区や行政が非協力的で、資金面などの支援が得られない」「福祉ボランティアに参加したいが、バス代などの実際の経費に配慮が必要ではないか」という意見があった。
- ・このような課題に対しての提案については、まず「情報」に関しては、市民活動の冊子をつくることやインターネットの活用ということがあげられた。
- ・「人」以降については、提案まで細かくつめる時間が足りなかったが、話の中で提案的な意見もあがっている。
- ・ばくぜんとしているが、不特定多数の人が参加できるような仕組みづくりが必要であるということや、実際に子供たちの声かけ運動で成果が出ている、実行委員会で行事をして若い人に参加してもらってうまくいった、という紹介があった。
- ・これらに属さないものでいくつか提案があり、まず目指すべき協働の方向としては、NPOを中心として、市民、行政、企業の連携をつくるということ。特に御殿場は企業との連携が弱いので、力を入れていくべきだ、という意見があった。
- ・また、価値観の多様性、お互いを尊重する気風づくりが大事である、各団体のPRによって、市民一人ひとりの必要性の意識を高めていくことが必要であるという意見があった。
- ・活動の評価システムがないので、評価できるシステムを考えるべきだという提案があった。

【ファシリテーター：山本より】

- ・「人」に関する意見が多かったのは、活動は人がなうということである。出された意見の中にさまざまな知恵が詰まっている。問題点の裏がえしが提案になる。
- ・これから協働の指針をつくるときに、人をどう育てるか、行政がどう関与するか、市民が市民をどう育てていくか、ということが課題になるだろう。

3 班 (発表：鈴木(雄))

- ・市民活動の問題点として、大きくは5つに分類できた。
- ・まず1つ目のキーワードとしては、「拠点」がないことで、ボランティア団体などの活動拠点がいないという意見であった。
- ・次に「資金」の問題で、「活動や資金の作り方のアドバイザーがない」ということがあげられた。
- ・最も多い意見だったのが、「若い人がいない」ということで、「魅力がない」「自分のライフスタイルをこわしてまで参加したくないと考える人が多い」という意見などがあがった。
- ・次に「参加者・会員数の減少」ということで、高齢化・固定化ということが大きな問題としてあがった。出てくる人はいつも一緒に高齢の人が多いうのが現状である。
- ・そのほか、活動のマナー化、活動の減少という意見もあげられた。
- ・「連携」の問題としては、「各種団体の活動についての情報が足りない、PRが少ない」「ボランティア



ア間のつながりが少ない」という意見があがった。

- ・こういった現状に対して、評価したり、課題を浮き彫りすることが今日の目的であるが、3班はそれぞれの問題についてどうしたら良いのかを考え、まとめてみた。
- ・「拠点」については、現在市で多目的ホールが計画中ということであるが、その他にBe - Oneビルや空き教室、他の市施設を無料開放してはどうかという意見があげられた。
- ・「資金」に関しては、「受益者負担を求める」「企業の資金援助を受ける」「政策提案を行って、公の委託事業を受ける」という提案があがった。
- ・「若手の人材」ということでは、ホームページを設置したり、携帯電話で情報発信して若い人に見てもらおう。時代に合わせた活動に変えていく。若い人に出てもらったらボランティア貯金を与える、などという意見があげられた。
- ・同様に、固定化・高齢化に対しても、若い人を入れることが対策になるだろうということであった。
- ・各種団体の「連携」ということでは、先ほどと同様に、情報発信や、ホームページをつくるということであった。その一方で目的によっては連携しなくていいものもあるという意見もあった。

【ファシリテーター：山本より】

- ・市民活動に参加してほしいと期待する年代は？（全体に質問）
全体で挙手して回答した結果、「40代」～「10代」までの中で「30代」が一番多かった。
30代の人に参加してもらいやすい方策を、今後考えましょう。

5 まとめ（ファシリテーター：山本）

- ・時間が限られているので、全体で議論する時間がとれなかったが、次回にはぜひそういう時間をとりたい。
- ・次回は、行政側の問題、特に市役所についてになるだろうが、議論をしたい。皆さんも言いたいことがたくさんあると思う。
- ・そのあと、これまでの検討全体の情報を整理し、全体討論を行いたい。今の段階ではテーブルごとの議論であるが、これまでの情報を重ね合わせることで、全体で何を議論していくかが少しずつ見えてきている。

6 事務局より報告（地域振興課：鈴木）

- ・先進地視察について。このあたりで一番市民協働が進んでいると言われている、世田谷区のまちづくりセンターを視察することにした。11月2日の2時～4時。11時に市民会館に集合のこと。旅費は市が負担、昼食は自費負担でお願いしたい。
- ・次回の会議は、10月21日の予定であったが、視察がその先になるので、10月8日に1回追加して開催することにした。
- ・そして視察のあと、見学した印象がうすれないように、翌週の11月9日に報告会ということで、話し合いの会議をもつこととした。
- ・市民アンケートについて。市民2千人に協働に関するアンケート調査を行う。委員に直接届くことはないと思うが、知り合いの人などに届くことがあるかと思うので、ご承知おきをお願いしたい。
- ・同じく、社協に登録されているボランティア団体やNPO法人にも、協働のあり方についての団体ア

ンケートを行う。ぜひ協力をお願いしたい。

【ファシリテーター：山本より補足～世田谷まちづくりセンターの紹介】

- ・世田谷のまちづくりセンターは、おそらく 80 年代には全国の先進地として最も有名で、非常にユニークなまちづくりを実験的にやってきた。
- ・有名な活動の 1 つに、世田谷美術館近くの清掃工場の煙突のデザインコンペがあった。美術館の模型を使って、応募してもらった絵を円筒状に丸めて審査した。これによって、雲を描いた空の色に溶け込むようなデザインが採用された（高速から見える）。
- ・これにヒントを得て、富士市は煙突で町おこしをしようということで、市内に 365 本煙突があると言って、「煙突探検隊」という活動を子供たちにやってもらった。地域の産業や歴史を子供が学ぶことにつながる。子供が注目し調べるといふことで、工場側も悪いことは出来なくなるということにもなった。
- ・このようなアイデアのもとが世田谷のまちづくりセンターから情報発信されてきた。最初は小さな場所で様々な立場の人が集まってやっていたのが、現在は整理されて都市整備公社が管理している。
- ・他にも、まちづくりの活動をしたいという団体などに、コンペ方式でお金を出す、支援するという仕組みも参考になるだろう。

以上